

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.70

2011.7.5

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 事務局会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

原発問題は憲法と独立の問題 川端先生 熱く語る

5月27日、一関文化センター中ホールで、憲法行事实行委員会（千田功平実行委員長）が「2011年平和憲法を守る県南のつどい～憲法講演会」を開催。九条の会全国講師団の川端純四郎先生が「国民の暮らしと日本の進路～東日本大震災と日本の原子力発電～」と題して講演し、東京電力福島第1原子力発電所の事故で起きた諸問題と絡め、日本国憲法第9条の大切さを250名の市民に訴えました。

川端先生は、原発問題について「原発は憲法前文や25条に関わる人間の生存権の問題」として、福島県下では年間1ミリシーベルトの国の基準を超える放射能汚染が記録され、特に子どもと妊産婦が心配と、深刻な実態を紹介しました。

原発の歴史は、先住民や労働者差別の歴史であり、ウラン発掘の労働はアメリカインディアンやオーストラリア原住民、黒人にさせたと言います。また、現場労働に携わる人の被爆は避けられず、追跡調査もなく限界被爆量で解雇します。いかに科学的施設でも、実際の現場は前近代的な奴隷労働で支えられてきたのです。

また、これまで原発反対派の学者は要職から追放されてきましたが、政府はそのような人々の意見も採用し、ドイツのようにアメリカのいいなりにならないことが重要と話されました。



さらに「エネルギー問題も含めて日本人のライフスタイルを見直すべき。他国に左右されない自立した考えを持つべきだ」と強調しました。

参加者からは、「政府や東電の対応のまどろっこしさの原因がわかった」「本質を考えさせられた、未来が見えた」と感想が寄せられました。

会場では東日本大震災の募金を呼びかけ、集まった4万円は5月30日に千田功平委員長と齋藤三郎事務局長が一関市を訪れ届けました。
(一関九条の会)

平和憲法・9条をまもる岩手の会へ 100万円のカンパをいただきました。

平和憲法・9条をまもる岩手の会の経費は、個人・団体の協賛金、カンパなどをもってあてています。この間、みなさまからいただいたカンパや映画の収益等で、このニュースの発行・発送や街宣署名行動など9条をまもる運動を行ってきました。

5月25日、この会や地域の会が中心となって取り組んだ「日本の青空Ⅰ」「いのちの山河～日本の青空Ⅱ」を製作された有限会社インディーズ様より100万円のカンパをいただきました。みなさまへお知らせするとともに、「岩手の会」運営のために大切にに使わせていただきます。

また、カンパにご協力いただける方は上記連絡先までご連絡ください（振込用紙を送付いたします）。

今月の署名行動

今日は、7月8日（金）12時より盛岡市大通りにて街頭署名行動を行います。ぜひご参加ください！

核について考え直そう！ 国民平和大行進&反核平和マラソン

6月11日～19日に原水協主催の「国民平和大行進」、6月29日～7月1日に岩手自治労連青年部等が主催する「第26回反核平和マラソン」がそれぞれ開催されました。

平和大行進は、8月の原水爆禁止世界大会に向けたもので、反核平和マラソンは国際平和年の1986年に「青年がもっと核兵器廃絶運動の先頭に」との思いで始められたものですが、今年は東日本大震災を受けて『住民本位の日も早い復興』や『原発事故の早期解決』『原子力利用の見直し』を掲げ、憲法に保障された住民の権利を守り、そこに住む人の身も心も平和な社会を求めながら行われました。

大行進では、盛岡大学生などが寄せ書きを綴ったプラカードを掲げ、マラソンではメッセージを書いたお揃いのTシャツでアピールしました。

大行進に参加した学生は、『核兵器廃絶を呼び掛けるための行進だということも知らず、先輩から預かった平和メッセージが書かれた幕を歩行者やバスの乗客に見えるよう掲げる事しかできませんでした。しかし、歩いている中で自分が今までどれだけ平和について考えたことがあった



か自覚することができました。それが1番の成果だったと思います。

一方で、行進への参加者もそうですが、沿道の方々も興味を持ってくれるのは高齢の方が多くて、10代後半～30代位までの人は列を見ても興味がないというか、かまってくれないなという人が多いように感じられました。考えてみると高校、大学で平和について考える人はどれくらいいるのでしょうか。考えるきっかけがなければほとんどの人が考えないのではないのでしょうか。だからそういったきっかけを与えるという意味



で平和行進は有意義な行事だと思いました。また、戦争を知っている人達の数が減ってきている現在、核兵器廃絶という大きなテーマではなくても、身近なこととの関連で一人一人が平和について考えることができればいいのではないかと思います。』と感想を語っていました。

改めて、これらの取り組みを通し、平和へは息の長さとして一人ひとりへの啓蒙が大切だと感じました。

(岩手自治労連 菊池俊)

「トモダチ作戦」やっぱり有事対応の思惑あった

6月21日開催の日米安全保障協議委員会(2プラス2)の共同発表がありました。それと前後して関係筋からコメントがあり、その中で「米軍による大震災の救援活動『トモダチ作戦』を評価」していたことから、それを受けて「朝鮮半島有事など周辺事態の際の米軍支援を円滑化する思惑もあり」と報道されていました。これには「やっぱり！」と同感を禁じえませんでした。

「トモダチ作戦」の「トモダチ」は「救援活動に便乗したもの」と違和感を抱いていました。それは軍事対応の一環だからです。しかし「トモダチ」は「フレンド・シップ、ピースフル」であり、人間関係、国際交流、国際関係の基本的な原則であります。これがなければ国際間の諸交流も平和的なものにならないことは、国際連合を中心とした国際社会の常識でもあります。「トモダチ」の言葉遣いは真の意味でのものであって欲しいものです。

「有事など周辺事態(戦争や事変など)」が引き起こされないよう、「米ソ冷戦時代」の軍事対応的な「駆け引きの外交」ではなく、国際連合を中心として日本国憲法に基づいた平和外交を率先して行うべきです。そのためには日米安全保障条約、周辺事態法などが日本国憲法に反しないものであるかのような「風潮」を克服する国民的な議論が何としても必要な時だと思っています。

(事務局)